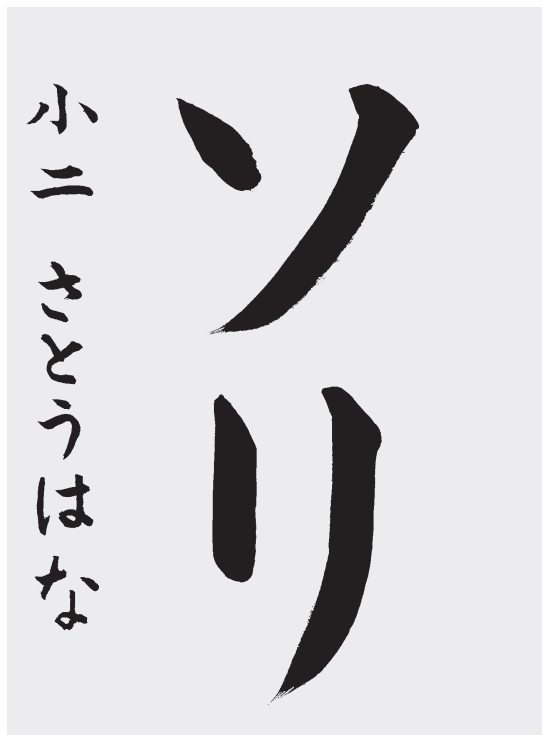


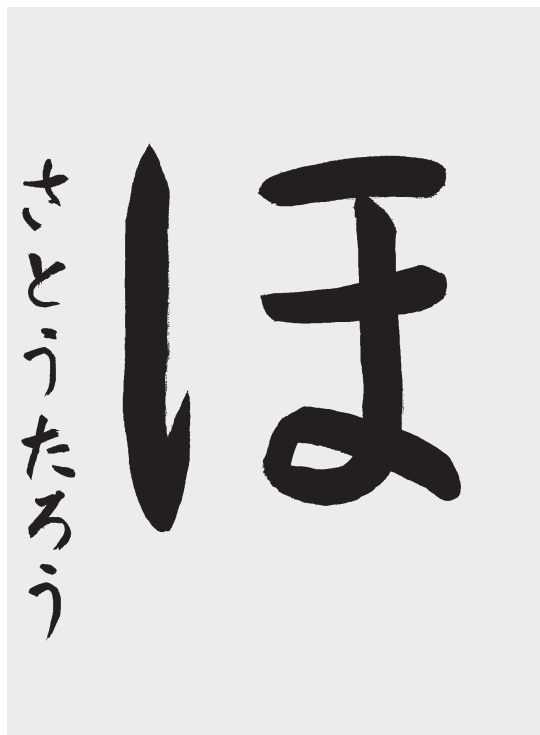
〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

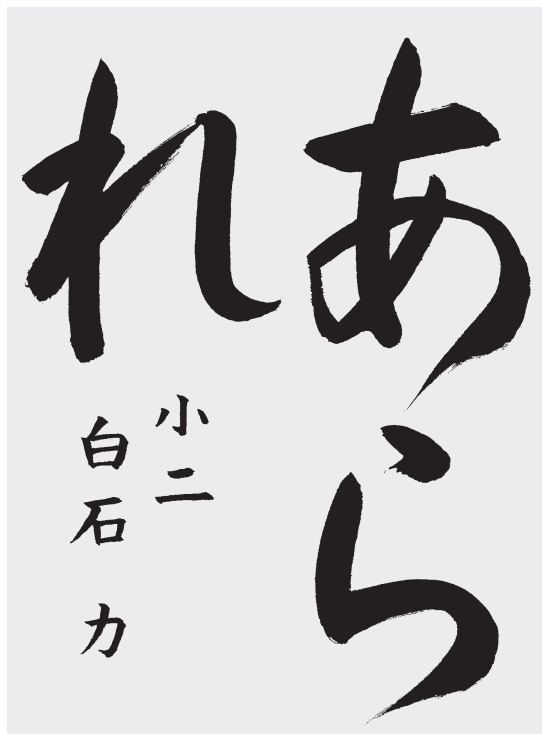


後藤大峰先生

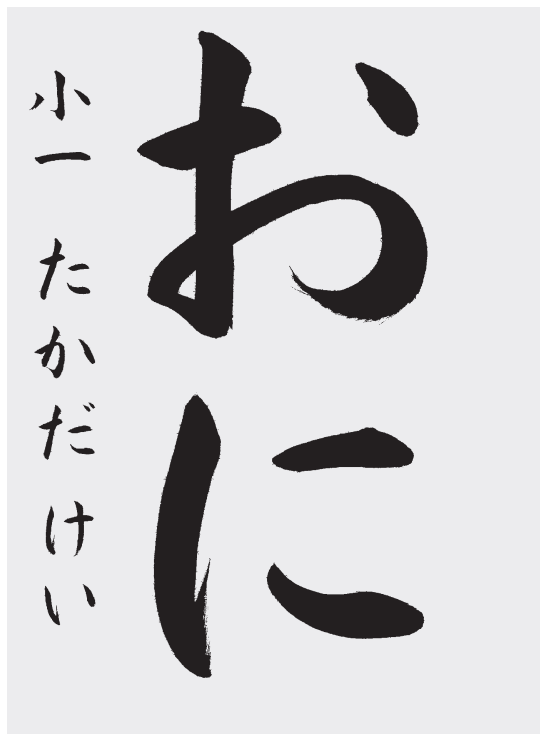
幼・小学1年参考手本



田村鄭雲先生



広瀬舟雲先生



大平邑峰先生

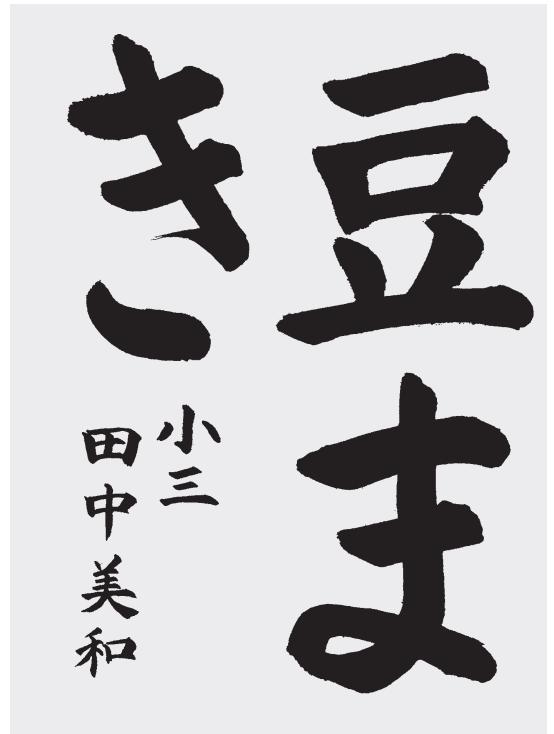
〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

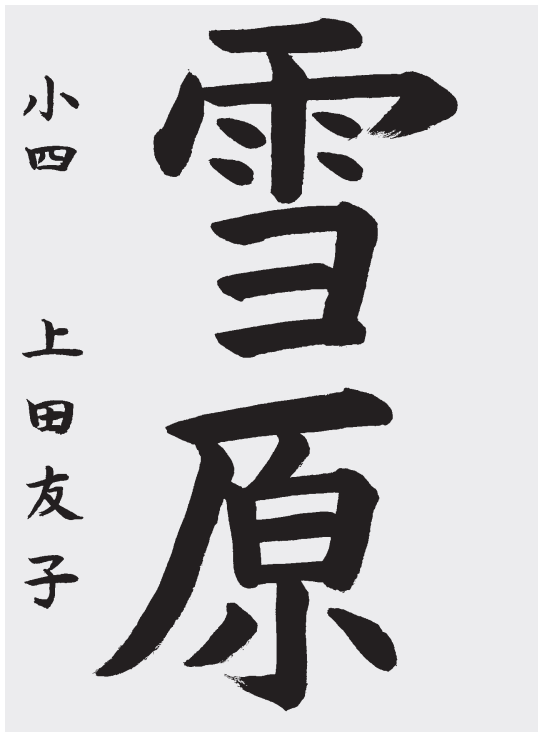


三浦鄭街先生

小学3年参考手本



田中扇溪先生



坂本素雪先生



佐藤菜扇先生

〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

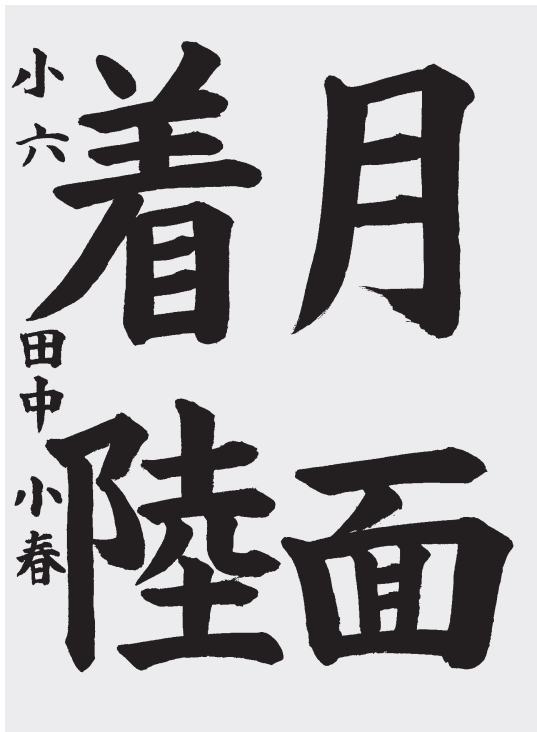


武山 櫻子 先生

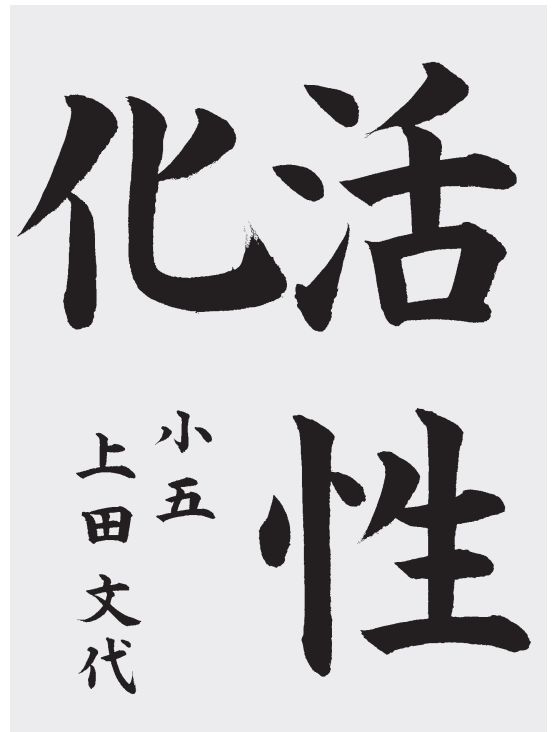
小学5年参考手本



辻元 大雲 先生



千葉 蒼玄 先生



小竹 石雲 先生

〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）

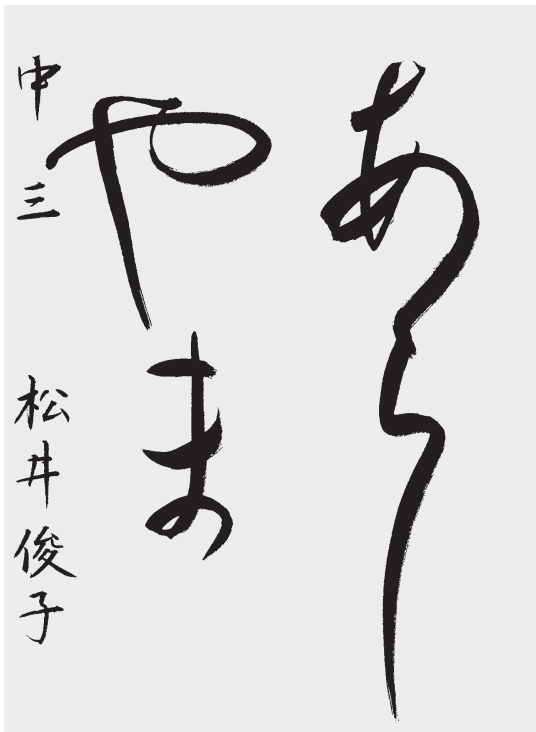


川島舟錦先生

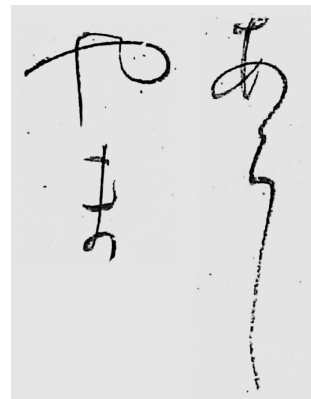


種谷萬城先生

「高野切」は平安時代の仮名の代表的な作品で、昔から多くの人が学んできた、親しみやすい書です。繊細で流れるような美しさが特徴です。



下谷洋子先生



あらしやま（集字・拡大）

● 有名な古典の名跡に挑戦してみよう

発展〔中学生〕

高野切第三種
（平安時代・十一世紀中頃）
伝・紀貫之

毛筆参考手本解説(1)

1年

ほ
 1 2 3 4
 保保保ほ
 ほ(ゴ) ほ(明)
 ほ(教)

おに(ゴ) おに(明) おに(教)
 1 2 3
 1 2 3
 仁 於 於
 仁 於 於
 仁 於 於

3年

豆ま
 1 2 3 4
 豆まき(明)
 豆まき(教)

外
 1 2 3 4
 豆まき(明)
 豆まき(教)

4年

立春
 中心
 等間かく

立春(明) 立春(教)
 一 十 十 立
 三 夫 夫 春 春 春

5年

寒風
 中心
 等間かく

寒風(明) 寒風(教)
 一 一 一 寒 寒 寒
 ※まちがえやすい筆順です。
 一 八 八 風 風 風
 風方向

2年

ソリ(明) ソリ(教)
 1 2
 1 2
 利 曾
 利 曾

あられ(ゴ) あられ(明) あられ(教)
 1 2
 1 2
 安 安
 安 安

外
 中心
 上下の余白は等しく
 出る

外国(明) 外国(教)
 ノクタ外
 口 口 口 口 口 口

雪原
 中心
 等間かく

雪原(明) 雪原(教)
 一 一 一 雪 雪 雪
 一 一 一 原 原 原

活性化
 中心
 止める
 点は左下に向かって止める

活性化(明) 活性化(教)
 一 一 一 活 活 活
 一 一 一 性 性 性
 ノイイ化

毛筆参考手本解説(2)

6年

中学

やさしい行書

中心
建 築

〈筆順〉

㇇ ㇏ ㇑ 肆 肆 建

又(えんにょう)

筑 筑 筑 筑 筑 筑

建築(ゴ) 建築(明) 建築(教)

等間かく
着 月
陸 面

〈筆順〉

ノ 月 月 月

月面着陆(ゴ) 月面着陆(明)

一 一 一 一 而 而 面 月面着陆(教)

ヤ 並 並 着 着 着

陸 陸 陸 陸 陸 陸

発展
「高野切第三種」

筆脈に気を付けて
リズムカルに書きましょう。

のびやかに
連綿…二文字以上を続け書き
すること

点画と点画が筆の動きとして
繋がっていることを「筆脈」という。

ひらがなの字源 (399)

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

					字源	字形
ま	や	し	ら	あ		
末	也	之	良	安		
末	也	之	良	安		
末	也	之	良	安		

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

[2月6日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 2 年

幼・小学 1 年

硬筆参考手本

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

支 部 名				
	ん	車	が	あ
段・級				
学 年				
	二			
名 前				
	中	川	り	ほ

支 部 名				
	の	れ	い	ぞ
だん・きゅう				
がくねん				
	一			
なまえ				
	ふ	じ	た	つ

中心
 「園」の字形をただしく書きましよう。
 左右の「はらい」の長さ「△」のいち
 <ひつじゅん>
 ノハ公公
 公(ゴ) 公(明) 公(教)
 画と画の間(あいだ)にちゅうい
 <ひつじゅん>
 □(イ) 園(明) 園(教)
 よこかくのあいだ
 <ひつじゅん>
 がく
 車(ゴ) 車(明) 車(教)

中心
 上にあがる
 ほうこうにきをつけて
 の(ゴ) の(明) の(教)

 のびやかにほう
 ちゅうけいきまをさかへて
 ゆ(ゴ) ゆ(明) ゆ(教)

〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 4 年

小学 3 年

支部名			
段・級			
学年	四		
名前	早坂明里		
	ると地上に出てきます。	土の中にいて、春にな	カエルは、冬の間は

支部名		
段・級		
学年	三	
名前	山田春道	
	はってありました。	教室に学級新聞が

中心

漢字の外形を見て正しく整えて書きましょう。

たてと横の分間を整えて

〈筆順〉

一 門 門 門 門 間

間(教) 間(明) 間(教)

五画目の右はらひは、二画目から書く。

※左右のはらひの長さをつりあひよく

〈筆順〉 三 夂 夂 春 春

上に出た部分を長く

〈筆順〉

一 十 十 地 地

地(教) 地(明) 地(三)

中心

筆順や点画の長短に気をつけて書きましよう。

「つくり」を下げる

とめ 〈ひつじゅん〉

一 彡 立 亲 新 新

新(三) 新(明) 新(教)

「はらい」をていねいに書きましよう。

〈及〉のひつじゅん

ノ 乃 及

ノ 乃 及

たて・よこの分間(画と画の間)を整える。耳は中心に。

〈ひつじゅん〉

一 門 門 門 門 間

間(三) 間(明) 間(教)

級(教) 級(明) 級(三)

〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 6 年

小学 5 年

支 部 名			
段・級			
学 年	六		
名 前	海野真希		
	く	に	先
	だ	に	生
	さ	伝	が
	い	わ	放
	ま	る	課
	し	宝	後
	た	物	に
	。	を	故
		見	郷
		せ	
		て	

支 部 名			
段・級			
学 年	五		
名 前	池谷陸		
	つ	風	方
	い	土	言
	た	や	は
	こ	生	。
	と	活	そ
	ば	に	の
	で	深	土
	す	く	地
	。	結	の
		び	

物

郷

放

筆順にしたがって正しく整えて書きましょう。

ななめ分間とほらいの方向に注意
 〈筆順〉
 ノー牛物物
 物() 物(明) 物(教)

ほぼ三等分
 〈筆順〉
 く多知郷郷郷郷
 郷() 郷(明) 郷(教)

〈筆順〉
 一ウカガ抄放
 放() 放(明) 放(教)

中心
活

結

深

〈筆順〉
 シンニ汗汗活
 活() 活(明) 活(教)

〈筆順〉
 許容 糸糸結結
 結() 結(明) 結(教)
 はね 方向・筆順

とめ 深() 深(明) 深(教)
 シ(さんずい)の形に注意
 〈筆順〉 一江江深深深

組み立て方に注意して字形を整えましょう。

〔2月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生（行書）

中学生（楷書）

支部名	創造は過去と現在とを材料としながら、新しい未来を発明する能力です。ー晶子の言葉ー
段・級	
学年	
名前	
長谷川美月	

支部名	創造は過去と現在とを材料としながら、新しい未来を発明する能力です。ー晶子の言葉ー
段・級	
学年	
名前	
長谷川美月	

木 省略
 次への画につなげる
 気持ちで

材料 新

やさしい行書

中心 能
 〔許容〕 止め 能(3) 能明
 方向に 能(教)

中心 発
 〔筆順〕
 フアハハハ発
 〔字形〕
 発(3) 発明
 発(教)

中心 過
 〔筆順〕
 口口口口周過
 過(3) 過(明) 過(教)

行の中心に注意して書きましょう。

これからの作品締切日と課題

令和7年3月号の
作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
はるのうた (高野切第3種)	春風	将来	再利用	活気	文化	山	れ	3月9日	3月
	持続可能	卒業写真	伝統	竹馬	うぐいす	マリモ	なわ		

3月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

たい	
かい	
せき	
つじ	
です	
。	

小2

ため	こ
の	こ
場	は
し	花
よ	を
です	う
。	える

小3

なが	雪
が	ど
れ	け
出	水
し	が
ま	谷
した	川
。	に

小4

分	る	博
かり	と	物
り	い	館
ま	ろ	な
す	い	ど
。	ろ	を
	な	見
	こ	学
	と	す
	が	

小5

し	着	ま
に	こん	だ
は	で	寒
の	い	く
香	た	、
り	が	コ
が	、	ー
し	日	ト
た	差	を

小6

つ	税	討
い	金	論
て	の	会
説	基	で
明	本	、
し	的	政
ま	な	治
した	問	家
。	題	が

中学生

「我田引水」とは我が田に水を引く。転じて、自分の都合のよいようにすることである。

《バーコード出品券に関するご注意》

バーコード出品券を紛失された場合は、作品を提出される前に事務所に電話でご連絡ください。

登録変更・部数変更・退会手続きのお願い

※名前の文字や、学年の登録変更は、バーコード出品券に訂正をされても、変更することができません。
「登録用紙」に変更する名前や学年を記入して、毎月15日までに事務所に郵便・FAXにて連絡をしてください。

※部数変更も、毎月15日までに連絡してください。
増冊はいつでもできます。

※退会手続きは、春季・秋季「昇段級試験受験一覧」に記入してください。中3の生徒は、こちらで3月末に退会手続きをします。

◎ご不明な点がありましたら、事務所にご相談ください。

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第95回 石碑建立物語4

庵治石にこだわる以上、東京の石材店よりも、庵治石の採石場近くでこの石に詳しい老舗の石材店の方が：ということとなった。つまり、庵治石の採石場の山のある香川県高松市牟礼町・庵治町の石材店である。庵治石は大変高価な石であることは先に述べたが、私たちが望んでいる記念碑サイズのような大きな塊の上質な石は、なかなか産出しにくい貴重なものということも判ったからである。当初、できれば最上ランクの細目の石がいいと思っていたのだが、予算にも限りがあり、庵治石でできるのなら下のランク（中目の建材用の石など）の石でも：と思いはじめていた。

庵治の山から切り出した巨石をすぐに加工できる施設（工場）があり、社長も先代社長（現会長）も熟練した庵治石の加工技術を持つ、(株)大川石材店に決めた。現社長は三代目にあたる。もう一つの決め手は、会長が現在では数少ない、碑文字の手彫りの名人でもあるということである。社長は庵治石の組合の役員でもあり、積極的に庵治石の良さを日本や海外に広めるだけでなく、日本及び世界各地の有名な石の採石場を訪ねては、それぞれの石にあった進んだ加工技術を修得してきた研究者でもあり、よい方法が見つかるかと庵治の山の採掘方法にも進んで取り入れてきた人であった。有名な彫刻家イサム・ノグチの工房がすぐ近所で、現在は庭園美術館となっているが、社長は幼いころその庭でよく遊んでいたという。実際に彼にお会いしたこともあるという。

ところで、それより驚いたのは、庵治石の産出する山のある半島は、源平合戦で有名な屋島のまさに湾を隔てた向かい側で、那須与一が、瀬戸内海に浮かぶ平家の「舟」上に掲げられた小さな「扇」に、岸辺から弓を放ち見事に射抜いた「扇的」という逸話は有名なが、この史跡が、大川石材店から歩いてわずかな所にあったことである。なんとこの史跡

に現在掲げられている庵治石のモニュメントは大川社長の作という。師の種谷扇舟先生の雅号「扇舟」の由来はこの故事が典故と拝聴していたが、まさに師のお導きと感謝したのであった。

実際に高松の旧家・神社・高松城等の古くからある庵治石の石造物を大川社長に案内していただきながら庵治石の見分け方や質についてレクチャーしていただき、おかげで庵治石にかなり詳しくなることが出来た。高松市内の旧家で300年経過した灯笼や、江戸時代建築の神社の石段を拝見した時に、風化がほとんど感じられず、石の角が鋭角で、今刻したばかりに見えるのでとてもびっくりした。愛媛県には700年前に造られ現在も露天のままほとんど摩滅していない五輪塔が存在。近年のものでは、東京千駄ヶ谷の旧国立競技場の有名な聖火台を支えた台石がなんと庵治石であったことをお聞きした。

庵治石は、花崗岩のダイヤモンドといわれるほど、耐久性に強い石である。最上位の細目の石は小さいものなら比較的採石しやすいのだが、大きな塊の良石を採掘することが大変難しいのである。非常に硬いがゆえに切断して断面を磨いてみると中に傷や碑にするのにそぐわない線状の層などが入っていたりするという。大川石材会長と社長、そして庵治石の最高の細目の石を採掘できる「大丁場」の掘削責任者太田さんのご厚意により、ここを3年かけて掘り

◀ 那須与一「扇的」史跡



進めて探し、現時点でこの山から採掘することができた巨石で最高のもので加工していただけだったのであった。(つづく)

今月のホープ



動きの大きさと明るさがよい。字形も美しく滑らかな行書のリズムで、書くことを楽しんでいる様子が窺えます。

中三 熊代紗羽 (光峰)



字形よく、あたたかく堂々としていて素晴らしいです。「ば」のむすびも良く、名前もしっかり書いて見事です。

小二 馬渡花奈 (雅翠会)

文部名	わかば	的	能	
段・級	四段	な	楽	「キ」よ
学年	六	喜	で	う
氏名	須永楓菜	劇	演	げん
		である。	じ	は、
			ら	
			れる	
			古	
			典	

とても読みやすく書かれています。扁と旁のバランス、起筆、ひらがな、氏名すばらしい。これからも文字を大切に。

小六 須永楓菜 (わかば書道教室)

文部名	若美	る	ん	会
段・級		か	な	話
学年	四	を	気	文
氏名	岩上夏乃	考	持	は
		え	ち	だ
		て	で	れ
		読	話	が
		もう。	して	と
			い	

字形正確で筆圧も適度に強く、申し分ありません。行がまっすぐに立っていて、豊かで雄大な作品になっています。

小四 岩上夏乃 (若美会)

幼・1年

れ
せんごくたまき

なわ
小一こいけみか

2年

山
小二山下みくね

モマリ
小二田中まみ

3年

文化
小三山本恵子

いうすぐ
小田中小春

4年

活気
小四山川友子

竹馬
小四大木光

5年

再用利
小五奈良みか

伝統
小五上田友子

6年

将来
小六香川志美

卒業写真
小六田中小春

中学

春風
中一玉山梨花

可持続
中二尾坂章

けさのうた
中三沢木ゆうり

編集余録

○謹賀新年 2025年の干支は乙巳（きのと・み）年です。皆さんにとって素晴らしい一年でありますよう願っております。本年も宜しくお願い致します。

○2月5日から11日まで第76回全国学生書道展が東京都美術館で開催されます。会期中は昨年に引き続き、大賞受賞者による席上揮毫やワークショップを予定しております。また、第78回書道芸術院展も開催しております。是非会場に足を運んでみてください。

○今月の中学生の課題は、平安時代の仮名の書、「高野切第三種」です。平安時代前期に、それまで詠まれた優れた和歌を1000種以上集めた「古今和歌集」が作られました。それを書き写した現存する最古の写本が「高野切」です。元々は20巻ほどの巻物でしたが、時代が経つにつれ、巻物を切り取って掛け軸として鑑賞するようになりました。また、その一部が高野山に伝えられたことから、「高野切」と呼ばれています。筆者は紀貫之と伝えますが、実際は三人の優れた能書家が分担して書き写したと推定され、その書風の違いから第一種、第二種、第三種と分けられています。明るくすっきりとした筆線と自然な流れの美しさが特徴です。是非臨書してみてください。

（悠輝）